

1 作物

項目	作業内容																								
<p>(1) 普通期水稻の育苗管理等</p> <p>(2) 麦の管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○普通期水稻の育苗管理等 ○麦の管理 <p>5月は普通期水稻の育苗が始まる。育苗管理は「今月の天候と農作業(3月)」、移植前のほ場準備は「今月の天候と農作業(4月)」を参照に作業していく。</p> <p>ア カラスノエンドウの種子、異物の混入防止</p> <p>収穫物にカラスノエンドウ種子(写真右)や異物(金属、ガラス、石)が混入すると、調製～精麦～加工段階で除去するのは難しい。これら種子・異物は愛媛県産麦の評価を著しく低下させるため、混入防止を徹底する。</p> <p>対策としては、収穫までにはほ場内や畦畔、農道を巡回し、カラスノエンドウを抜き取ることが挙げられる。ほ場周辺から完全に除去するために、生産者による立毛調査(互評会やほ場巡回)を行うなど、地域ぐるみでの対応も望ましい。また、空き缶やビンを回収し、収穫時の刈込みを防ぐ。</p> <p>イ 麦の適期収穫</p> <p>令和4年産麦の出穂期は、2月の気温が低く推移したことで平年よりも遅くなった(農水研作況ほ場(11/18播)の出穂期:ハルヒメボシ 3/26(平年 3/19)、チクゴイズミ 4/1(平年 3/27))。しかし、1か月予報(4月14日高松気象台発表)によると、今後の平均気温は平年に比べて高くなることから、成熟期は平年並とみられる。降水量は平年並～多いとされており、表1と2を参照に、刈り遅れないようにする。</p> <p>表1 令和4年産麦の成熟期予想(農水研ほ場から予想)</p> <table border="1" data-bbox="466 1774 1406 1917"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">播種日</th> </tr> <tr> <th>11/1</th> <th>11/18</th> <th>12/13</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハルヒメボシ</td> <td>—</td> <td>5/10～5/13</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>チクゴイズミ</td> <td>5/9～5/14</td> <td>5/18～5/22</td> <td>5/27～5/31</td> </tr> </tbody> </table> <p>表2 成熟期の目安</p> <table border="1" data-bbox="466 1998 1406 2092"> <thead> <tr> <th></th> <th>出穂後日数(日)</th> <th>積算温度(℃)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハルヒメボシ</td> <td>44～51</td> <td>730～800</td> </tr> <tr> <td>チクゴイズミ</td> <td>50～55</td> <td>800～900</td> </tr> </tbody> </table>		播種日			11/1	11/18	12/13	ハルヒメボシ	—	5/10～5/13	—	チクゴイズミ	5/9～5/14	5/18～5/22	5/27～5/31		出穂後日数(日)	積算温度(℃)	ハルヒメボシ	44～51	730～800	チクゴイズミ	50～55	800～900
	播種日																								
	11/1	11/18	12/13																						
ハルヒメボシ	—	5/10～5/13	—																						
チクゴイズミ	5/9～5/14	5/18～5/22	5/27～5/31																						
	出穂後日数(日)	積算温度(℃)																							
ハルヒメボシ	44～51	730～800																							
チクゴイズミ	50～55	800～900																							



写真 カラスノエンドウ

項 目	作 業 内 容																		
	<p>穂首全体の80%以上が黄色くなってツヤがなくなり、穂色が黄緑色～品種固有色に変化し、粒がろう状の硬さに達したところが麦の成熟期である。ハルヒメボシの成熟期は、穂首の曲がった穂が約半数に達したときであり、出穂後日数だと44～51日程度となる(表2)。</p> <p>コンバインでの収穫は、成熟期の2～3日後に行う。穀粒水分25%以下で収穫し、その後すみやかに乾燥する。成熟数日前から、穀粒水分は1日当たりおおむね2～6%減少するとされる(晴天日：3～6%、曇天日：2%程度)。収穫適期より2週間早く収穫すると未熟粒が多く、1週間以上刈り遅れると退色粒が増加する。いずれも等級が低下する原因となるため、適期収穫に努める(下図)。また、硝子率は早刈りで高くなるので、早刈りは慎む。</p> <p>なお降雨直後など、高水分時の収穫は極力避ける。やむを得ず高水分(穀粒水分30%まで)状況で収穫する際は、コンバインのこぎ胴の周速度を通常より10～20%下げる。収穫後に長時間(穀粒水分40%で6時間以上)放置すると、穀粒の変質や赤かび病の感染拡大が懸念されるため、収穫後はただちに乾燥する。</p> <div data-bbox="544 1137 1347 1375" data-label="Image"> </div> <table border="1" data-bbox="486 1424 1342 1532"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>-2週</th> <th>-1週</th> <th>成熟期</th> <th>+1週</th> <th>+2週</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>等級</td> <td>2等</td> <td>1等</td> <td>1等</td> <td>1.6等</td> <td>2等</td> </tr> <tr> <td>(落等理由)</td> <td>(未熟)</td> <td></td> <td></td> <td>(退色)</td> <td>(退色)</td> </tr> </tbody> </table> <p>図 ハルヒメボシの刈取り時期別の検査等級(H30年産)</p> <p>ウ 麦の乾燥・調製</p> <p>乾燥は、穀粒水分25%以下であれば、45～50℃で行う。高水分(25～30%)の場合、退色粒の発生を防ぐため乾燥温度を40℃以下とする。1時間あたり0.8%ずつ穀粒水分が減少するのを目安に、はだか麦では穀粒水分13%以下になるまで乾燥を続ける。</p> <p>調製は、実需者から望まれる高品質麦を供給することを最優先に考える。雑草種子や異物、赤かび病罹病粒の除去、荷口ごとの品質均一化、細粒の混入防止に努める。</p> <p>グレーダーの篩目は、ハルヒメボシは2.2mm、チクゴイズミは2.3mm以上とし、入念に調製する。</p>	時期	-2週	-1週	成熟期	+1週	+2週	等級	2等	1等	1等	1.6等	2等	(落等理由)	(未熟)			(退色)	(退色)
時期	-2週	-1週	成熟期	+1週	+2週														
等級	2等	1等	1等	1.6等	2等														
(落等理由)	(未熟)			(退色)	(退色)														